

## 校内ビブリオバトル

ビブリオバトルとは好きな本を紹介する書評合戦です。どの本が読みたくなったかで一票を投じ、チャンプ本を決定します。浜松湖北高校では図書委員が審査員となり投票を行います。ギャラリーの皆さんには、バトルを盛り上げてもらい本への関心を高めてもらいたいと思っています。公式戦では4. 5分のプレゼンでグループ予選、決選となりますが湖北高校では対戦形式にしています。ぜひ校内ビブリオバトルを盛り上げて出場者を応援して下さい。今年度、第一回目のバトルは前年度チャンプバトルの25HR鬼頭芽生さんと、第10代生徒会長の27HRモレノトシオ君でした！



### 『謎解きはディナーのあとで』 東川篤哉著

令嬢の新米刑事と御曹司の警部、暴言執事のトリオがミステリーを軽妙に解決していき、庶民からは想像もつかないユーモアやトリックが楽しめます。本作は短編ミステリー集で、残酷な描写もなく事件が解決するたびに読者自身も三者の掛け合いに変わったような感覚になります！

### 『機動戦士ガンダム00』 木村暢著

西暦2307年の地球を舞台に、武力での戦争根絶を目的とした私設武装組織を主軸に据えたストーリーです。枯渇した炭素エネルギー、超大国間の冷戦、弱小国の貧困。間近に迫る近未来が描かれていると感じられ、魅力的な登場人物の言葉や心理描写から多くのことを考えさせられました。

## G O S P E L

今年度の芸術鑑賞教室はUSA ゴスペルスペシャルコンサートです。出演して下さるアーティストは『THE JAMCAKE CHORUS』です。素晴らしいゴスペルのステージを体験した前後に読みたいお薦めの本を紹介します。



「魂をゆさぶる歌に出会う」ウェルズ恵子著  
ゴスペル、ヒップホップなど、アメリカ黒人のつくりだした文化は、なぜ人を惹きつけるのか。歴史をさかのぼり、彼らの伝えてきた歌や物語を読み解くと、そこには「悪い」が「よい」を意味し、困難を笑い飛ばし、常に楽しみを作り出してきた魅力的な世界がある。



「ゴスペルの本」塩谷達也著  
ゴスペルははじめたいけど、宗教のことはよくわからない。ゴスペルの歴史・ルーツや、ゴスペルCDや映画の紹介など、ゴスペルの基本を含め、魅力を余すことなく伝えてくれる本著には、m-floのVERBAL、ゴスペラースの黒沢薫などの豪華インタビューも添えられ、ゴスペルに関するすべてが、この1冊にまとまっています。



「歌って生き抜け 命のコーラス」木嶋タロー著  
ゴスペル礼拝のこと、歴史的背景、音楽理論について、日本人の宗教観について、様々なアングルから丁寧に語られています。ゴスペルに出会ったときに、歴史的背景やどのようなシチュエーションで歌われ、どんな意味合いがあるのか学ぶ機会になる一冊です。

奴隷としてアメリカ大陸に連行されたアフリカ人は、彼ら独自の言語・宗教などをいっさい剥奪された。アフリカ系アメリカ人のゴスペル音楽は、その苦しい状況下で、南部アメリカのプロテスタントの福音(ゴスペル)と出会い、キリスト教への改宗を経て、神を賛美する音楽を奏でるようになったものである。



旧暦の8月15日の夜(十五夜)に見える月を「中秋の名月」と呼び、今年は9月29日がその日にあたります。そして、今年の「中秋の名月」はちょうど満月でした。恒久的に存在しながら、満ち欠けし、不思議な魅力を放つ月。そんな月を題名に冠した小説の特集です。



『月まで三キロ』伊与田新著  
月は一年に3.8センチずつ、地球から離れていっている。それはまるで、親から自立していく子供のように。満月に語りかけるタクシー運転手が乗せた乗客がたどり着いたのは命を絶つ場所ではなく、父親と自分の距離がまた近いと気づく“月”だった。



『月にハミング』Mモーバーゴ著  
第一次世界大戦のイギリス、シリー諸島。学校をサボって父の漁を手伝っていたアルフィーは豪華客船ルシタニア号から遭難したルーシーを発見する。戦争という悲劇の中で記憶を失ったルーシーの再生が描かれる史実の話ベースに創作されたフィクションです。

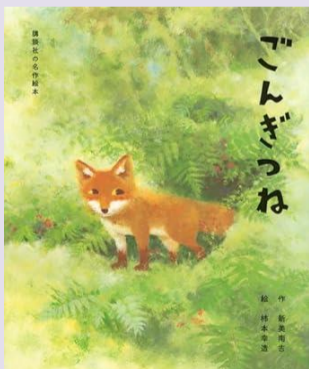


『狼が連れだって走る月』菅啓次郎著  
旅の可能性を考えない定住者は現実を変える力はなく、定住の意味を知らない放浪者は類廃に沈むだろう。旅の倫理と野生の哲学を探求する詩人思想家の名著。土地の精霊を先人たちの言葉と彷徨とともに呼び覚ましながら、砂漠と狼たちを讃える輝かしく美しい詩と思考の奇蹟。



『流浪の月』皿良ゆう著  
あなたと共にいることを、世界中の誰もが反対し、批判するはずだ。わたしを心配するからこそ、誰もがわたしの話に耳を傾けないだろう。それでも文、わたしはあなたのそばにいたい。再会すべきではなかったかもしれない男女がもう一度出会ったとき、運命は周囲の人を巻き込みながら疾走を始める。

### 『ごんぎつね』 新見南吉著 柿本幸造著



いたずら狐のごんは、兵十が川で捕った魚やウナギを逃してしまいます。しばらくして兵十の母親の葬列を見たごんは、そのとき逃がした魚やウナギは、兵十が病気の母親のためにとっていたのだと気づきます。なんとかおわびをしたいと思う、ごん。けれど、ぬすんだ鰯を兵十の家に投げこんで、かえって迷惑をかけてしまいます。ごんは心を入れ替え、自分の力で償いをはじめます。けれど兵十は毎日届けられる栗や松茸の意味がわからず、神様のおかげだと思い込んでしまいます。翌日、ごんが家に忍び込んだことに気づいた兵十は、またいたずらに来たのだと思いこみ銃口をむけます……。「ごん、おまえだったのか。いつも、栗をくれたのは。」というラストは、涙なしには読めません。教科書でもおなじみの新美南吉の名著です。

### 彼岸花に想う

彼岸花を見ると新美南吉の童話「ごんぎつね」を思い出す。いたずらでウナギを盗んだ子ギツネごんが村の葬式に行き会う場面だ。墓地に火炎に似た花が「赤い布のように咲き続」き、葬列が去った後、踏み折られている。……倒れた彼岸花は、哀れな最期の予兆でもあった。

……墓地に植えられたのは土葬の遺体を(彼岸花の毒をもって)モグラから守るためだった。不吉なイメージには墓場の風景が重なっている。火葬が行き渡り、そうした文化的背景も薄れた。今では秋の訪れを告げる花として、一面の群生をめぐる土手や公園が各地にある。外国人も美しいと感じこそすれ、死や不吉を連想することはいらない。……動物で人間だけが死者を弔う。彼岸花の赤から陰影が完全に消えたら、ごんぎつねの悲しみも伝わらなくなるだろう。(毎日新聞「余録」9.24より)



## 先生のお薦め本紹介

“新しい湖北のリーダーズ。”こと、大澤ゆう先生・大木美穂先生・中山智子先生・水野瑚都先生からのお薦め本です！

### 大澤ゆう先生

『夜は短し恋せよ乙女』森見登美彦著  
「黒髪の乙女」にひそかに想いを寄せる「先輩」は、夜の先斗町に、下鴨神社の古本屋に、大学の学園祭に、彼女の姿を追い求めた。けれど先輩の想いに気づかない彼女は頻発する“偶然の出逢い”にも「奇遇ですねえ!」と言うばかり。美しい古都の風景、コミカルで不器用なやりとり、読み進めやすく明るく楽しい世界観を味わえます。



### 大木美穂先生



### 『レインツリーの国』 有川浩著

忘れられない小説の感想を検索した伸行は、「レインツリーの国」というブログにたどり着く。管理人のひとみに思わず送ったメールに返事があり、ふたりの交流が始まった。伸行はどうしてもひとみに会いたいと思うようになっていく。しかし、彼女にはどうしても会えない理由があった。この作品を読んで、障がいに対して正しい理解や配慮を持てると嬉しいです。



### 中山智子先生

### 『探偵ガリレオ』 東野圭吾著

帝都大学理工学部物理学科助教・湯川学、常識を超えた犯罪と謎に天才科学者、ガリレオシリーズの記念すべき第一作です。短編5編による本作ですが、小気味良い展開と驚くばかりの科学トリックは25年前の作品とは思えません。科学的な実証実験等の描写にひきこまれます。難解な推理を紐解いてじっくり読んでみてください。



### 水野瑚都先生



### 『流星の絆』 東野圭吾著

何者かに両親を殺害された三兄妹は、社会の暗闇の中で生きながら、犯人を追い詰めていきます。14年間、互いのことだけを信じ、世間を敵視しながら生きる彼らの前に、最後の機会が訪れる。三人で完璧に仕掛けはすの復讐計画。その最大の誤算は、妹の恋心でした。流星群の輝きのような兄妹愛に心が揺さぶられます。

